

令和元年度 第1回せたがや生涯現役ネットワーク世話人会議事要旨

日 時：令和元年6月17日（月） 午後5時～午後7時30分

出席者：世話人 兜山、鬼塚、片岡、藤田、石川、臼井、秋山、山根、志水
市民活動・生涯現役推進課 生方、藤木、桑原

場 所：ひだまり友遊会館 第1会議室

1 入会団体の承認（1件）

「世田谷砂場クラブ」河上氏より団体概要の説明（子供たちの砂場遊びを見守る活動を通して、シニア世代の地域デビューや交流のきっかけを作る活動を行っている。）及び入会の意思表示があり、団体の入会が承認された。9月の臨時総会に議案を提出する。

2 〈報告事項〉

（1）令和元年度せたがや生涯現役ネットワークイベント実行委員の募集について

事務局より説明がなされ、メールと郵便によって募集通知が加盟団体あてに送付されることが確認された。実行委員会に応募する場合は6月30日までに事務局宛に応募用紙を提出する。

（2）せたがや生涯現役ネットワークパンフレットについて

平成30年度第5回世話人会で確認されたパンフレット作成の流れのとおり、ネットワーク代表、シニア現役プロジェクト各リーダー、デザイン担当の藤田氏、事務局の四者の決定で令和元年度のパンフレットを作成したことが事務局より報告された。

また、令和元年度パンフレットの活動団体一覧ページに「一般社団法人日本スポーツ吹矢協会」の記載が漏れており、テプラを使用して追記している旨が報告された。当該団体に対しては事務局より謝罪を行い、本対応について了承をいただいている。また、修正用テプラの代金をシニア現役プロジェクトの予算から支払うことについてはネットワーク代表及びシニア現役プロジェクト各リーダーに確認済みである。

3 〈協議事項〉

（1）世話人会の名刺について（当日追加報告事項）

事務局より世話人名刺について要否の確認が為された。作成を希望する兜山氏、片岡氏、臼井氏の3名には後日提供することとなった。

（2）アンケートについて

現在、プロジェクトとして活動を行っている「せたがや生涯現役ネットワーク」を共生社会に活かすためのプロジェクトにおいてアンケートが作成されたことが鬼塚氏及び臼井氏より報告された。

また、このアンケートの主旨はシニア世代がどれだけ地域に対して関心・参加意欲を持っているかを確かめると同時に、地域参加を促していくことであり、アンケートは①ネットワーク加盟団体向け、②ネットワーク加盟団体参加者向け、③一般向けの三種類を作成している。

一般向けのアンケートについては社会福祉協議会に配布を依頼する予定で、今年度末にはアンケート回答の分析結果を報告したいと考えているとの旨も鬼塚氏より述べられた。

(3) 「世話人会でどのようなテーマを話し合い、どのように世話人会を運営していくか」

世話人代表である兜山氏より、「世話人会でどのようなテーマを話し合い、どのように世話人会を運営していくか」ということについて検討していきたいとの提案がなされた。兜山氏の提案を受け、各世話人より以下のような意見が述べられた。(発言要旨のみ記する。)

〈片岡氏〉

- ・各団体の課題・問題点を吸い上げて、共通の課題について検討していきたい。
- ・各団体のリーダーが集まるような交流会を開催したい。

〈藤田氏〉

- ・それぞれ違う活動を行う団体に所属している人が集まる世話人会では、議論のまとめ方が一番の問題となるだろう。
- ・他団体に対する支援を世話人会で提案する必要があるのではないか。

〈臼井氏〉

- ・シニア現役プロジェクトの事業内容はメンバーが固定化しているため、凝り固まっているように感じる。また、当初の達成目標とずれてきている事業もあるのではないか。

〈鬼塚氏〉

- ・生涯現役ネットワーク全体のミッションについても今一度検討する必要がある。
- ・交流会については開催を検討すべきである。

〈秋山氏〉

- ・「大人の学園祭」については良いイベントだと感じている。さらに広める方法について検討したほうがよいのではないか。

他にもひだまり文化研究会、生涯大学、生涯大学同窓会などについても話題として挙げられた。

(4) 現在の世話人会の課題について

本日の協議をまとめるにあたって全世話人が意見を述べた。以下は各世話人の発言要旨である。

〈片岡氏〉

- ・各団体で後継者不足であることを懸念している。プロジェクトチームを作って検討を行ったらどうか。
- ・事前に検討課題を明らかにして各自の意見をまとめてから、世話人会で議論を行うのがよいと考える。
- ・大人の学園祭は自分たちの団体を一般の人たちにアピールする場、団体間のコラボレーションの場となっていると感じる。

〈志水氏〉

- ・今年度シニア現役プロジェクトが終了するためこれを機に、内容を一新したほうがよいと思う。
- ・2～3ヶ月単位と1年間の世話人会の目標と目的を決めるべきである。決めた目標に向かって細かく計画を立て、担当を決めてから実行するという流れが良い。

〈臼井氏〉

- ・平成30年度に事務局より挙げられた生涯現役ネットワークの検討事項である①中心メンバーが固定化されつつある、②3年間の総括と事業内容の精査が必要、③新規加入する団体は他団体とつながる場を求めていると思うが、その役割は果たしているか、という課題については今後考えていきたい。
- ・交流会を行うのであれば自分がこれからやりたいことの発表の場としたらどうか。

〈石川氏〉

- ・イベントのテーマについて今一度検討した方が良いのではないか。

〈山根氏〉

- ・「地域で活動をはじめたいあなたを「あとおし」します。」(加盟団体一覧に掲載されているキャッチコピー)を具体化するような活動が必要だと感じる。
- ・具体的なテーマが決まっていないと討議はしにくいと思う。回り持ちで提案を行う、司会を毎回変更するなど、自発的に考える場としたらどうか。

〈秋山氏〉

- ・団体の活動内容が異なるため、集まることは難しいと考える。世話人会に加盟団体の方を呼ぶなど、多くの人の意見を伺い、新しいことに挑戦していくことが必要なのではないかと感じる。

〈鬼塚氏〉

- ・社会貢献に対する意識が高い人が地域には多くいる。こういった人の窓口となるためにも、生涯現役ネットワークは他の活動との連携をしていくべきだと考える。
- ・交流会について世話人会で検討していきたい。

〈藤田氏〉

- ・世話人会は集まれる回数が限られているため、現実的な規模での目標を立てるべきだと感じる。
- ・シニア現役プロジェクトのような大規模の事業を世話人会で担うのは難しいと考える。

(5) 各世話人からの発言を踏まえ、次回世話人会では以下のテーマについて検討を行う。

- 1) 新規事業のイメージとその名称について
- 2) 交流会の具体的な案について
- 3) 年間スケジュールについて

4 次回の世話人会の開催予定

- ・日時：7月8日(月) 17時～
- ・場所：ひだまり友遊会館 第1会議室